

効果的なICT活用実践研究校 松永中学校 3学期のまとめ
第2学年 外国語科 Round5 Unit I

PLAN

(教材研究)

〈研究の方向性〉

- ・ 教科や単元で育成すべき力を明確にもち、どのような場面で、どのようにICTを活用すると効果的かを意識して、授業づくりをする。
- ・ 研究テーマ「自ら考え学び表現できる授業」の実現に向けて、ICTをどのように活用することができるか模索する。

単元観	<p>これまでのラウンド4までの学習でインプットしてきた英語表現をもとに、教科書のストーリーを自分の言葉でリテリングすることを通して、表現力を高めることをねらいとしている。</p> <p>※リテリング(再話): 英文を聞いたり読んだりした後、キーワードや絵をヒントに英文を再構築して自らの言葉で表現する活動</p>
生徒観	<ul style="list-style-type: none"> ・音読やライティングなどの活動に、意欲的に取り組んでいる。 ・教科書を繰り返し音読することで、内容を概ね理解している。 ・これまで Google 翻訳の音声機能を活用し、自分の音読状況を確認する活動を行ってきた。 ・英語で問われたことに対して、英単語や日本語で答えることができるが、英文で答えることができない。
指導観	<p>これまでに学習した表現を活用しながら自分が伝えたいことを自分の言葉で表現する力を高めるために、教科書のストーリーをリテリングする。その際、新しい表現にも触れる場にするため、他者との交流を通して、様々な表現を学べるようにする。</p> <p>表現力を高めるために、次の場面でICTを活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動で、自分が体験したことを伝える場面 ・ リテリングをするときのポイントを共有する場面 ・ 個々で考えた表現を全体で共有し、自己の表現の改善につなげる場面 ・ 生徒の表現のよさをフィードバックし、全体に共有する場面

DO (授業実践)

1 帯活動

- ・冬休みの思い出について、プレゼンテーションを行う。



2 課題を共有する。

Unit 1の内容を、自分の言葉(英語)でリテリングすることができる。

- ・リテリングをするときのポイントや教科書の表現を使って英語で表現することを確認する。

3 ペアで交流をしながら、リテリングをする。

- ・どんな場面なのか、何を伝えるのか等を考えながら英文を作る。
- ・単語やセンテンス等を活用し、ペアでリテリングする。



この場面をリテリングするときには…どのように説明する？
どんな英単語を使う？

すごい！！その表現いいね！
真似してもいい？

4 リテリングした内容を英文で書く。

- ・交流で得た表現をもとに、ロイロノートに英文を書き込む。
- ・デジタル(ロイロノート)、アナログ(プリント)で表現する方法を選択する。



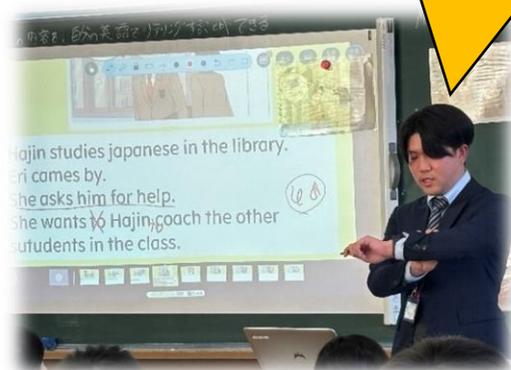
僕は、手書きペンで思いついた英文をとにかく書き出して…あとから修正しよう。



僕は、手書き派！
この英単語のつづりは…

5 リテリングの内容を全体で共有する。

- ・教科書の表現を活用しているか、適切な単語を使用しているか等のポイントをおさえながら自分にない表現を取り入れる。
- ・自分が表現したものと他者の表現を比較して、より良い英文を作る。
- ・次回のリテリングが今回のものより、レベルアップするような書き方のポイントを見つける。



この表現は、Unit3で学習した表現を使っている人がいるよ！
good!

(研究協議)

Check

英語で自分が考えた表現をまとめる際に、自分の実態に合わせ、デジタルかアナログかを選べるのが良かった。
タイピングに時間がかかる生徒もいたので、改めて生徒の ICT スキルをもっと高めないといけない。

リテリングとなると、手立てが必要な生徒が多かった。リテリングする際に活用できそうな英単語帳をデジタルで作らせてもいいかもしれない。

ロイロノートの共有ノート機能を使って、チームで考えさせてもいいね!

1年生は4線が必要なのではないかな。紙に英文を書き、写真に撮って、共有するという方法もある。





間違えたり、うまく表現できな
かったりしても、一生懸命表現し
ようとする姿が印象的だった。

どっちの表現がより良いかと
議論しているペアもいた。

言語分野でのICTの活用は
難しいけれど、今回のリテリング
の学習のように、補助的な役割
として使ってみてもいいかもしれ
ない!

生徒の良い表現を取りあげる
ことで、自分の間違いを確認し
たり、悩んでいた表現のヒントに
できたりしてよかった。

Action

(来年度に向けて)

今年度のICTパイロット校の取組を通して、教科の枠を超え全教職員が共通認識をもって授業参観し、教科で身につけさせる力を明確にしながら、どのようにICTを活用すればよいか考えることができた。これまで他教科の教職員は「他教科のことは分からない」と言っていたが、授業者が教材研究により明確にした教科の特性や目標等を示した学びづくり案と、学んでいる生徒の姿を踏まえて協議していく中で、「チーム松永」としてICT活用のより良い方法を考えることができた。ICTを「何となく使う」から、「生徒たちの深い学びのためにICTを効果的に使う」という視点をもつことができるようになってきた。

来年度は、ICTを活用して、学校での学びを家庭学習につなぐことや、3年間で生徒に身につけさせる情報活用能力を系統化することなど、生徒たちが社会に出たときに通用する力の育成にも目を向けて研究を進めていきたい。